

Back Number

本論文は

# 世界経済評論 2022年1/2月号

(2022年1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

## 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## グレート・リセット ：ダボス会議で語られる アフターコロナの世界

放送大学客員教授 朽木 昭文



【著者】

クラウス・シュワブ (Klaus Schwab)

世界経済フォーラム創設者・会長

ティエリ・マルレ (Thierry Malleret)

マンスリー・バロメーター代表

【訳者】 藤田正美, チャールズ清水, 安納令奈

【発行】 日経ナショナルジオグラフィック社,

2020年10月刊

【判型】 46判, 292ページ

【定価】 本体2,000円+税

本書の結論として、新型コロナ後に「グレート・リセット大原則」を説く。国家主義的になることなく、「多国間組織の協調」を求める。2030年に向けた「持続可能な開発目標(SDGs)」の加速を説く。

さて、新型コロナ後に新たな世界が姿を現す。世界は、転換点にある。その方向性は、根本的に変わり、復元力(レジリエンス)が高いことが必要である。本書が持続可能な変化の予想図を説明する。本書の目的は、全体像に照らして今後の展開の指針を述べることである。

本書のタイトルの「グレート・リセット」の「リセット」とは、パソコンでいえば初期化し、再設定することである。世界の転換点での「リセット」が、①マクロ、②ミクロ、③個人レベルの3つの観点から説明される。

現代社会を形作る3つの力とは、「相互依存」、「スピード」、「複雑性」である。「相互依存」の例として、感染症は、社会不安、失業、財政危機、難民など様々のリスクと相互依存してつながる。「スピード」の象徴は、インターネットであり、情報が世界に一瞬で伝わる。「複雑性」とは、変化の仕方が直線ではなく非線形である。こうして大転換が始まる。

①マクロリセットでは、第1に、世界の不平等の拡大により社会不安が起こり、リセットが必要となる。しかし、アメリカに社会不安を防ぐ余裕はない。そこで、グローバルではなく、RCEP(地域包括的経済連携)などのリージョナリズムが勢いを増す可能性が高い。また、米中間の競争は激化を予測する。リセットとして、多国間組織の協調による立て直しを説く。

第2に、環境問題へのリセットを説く。新型コロナの最大の教訓は、生態系の破壊、気候変動など環境問題への深刻度を警告したことである。また、第4次産業革命の下でのテクノロジーのリセットが進行している。

②ミクロリセットでは、企業レベルでは、デジタル化と環境・社会・ガバナンス(ESG)への配慮が必要となったと説く。③個人リセットでは、人々の行動の優先順位の考え方が変わると予測する。例えば、ロックダウンは、「創造性」を高め、自然と接する「時間」配分を増やす可能性がある。

本書は、2020年10月に緊急出版された。世界はほぼ本書の予測通りに動いた。292ページの本書は、以上の論理を丁寧に説明している。新型コロナ後に向けて「グレート・リセット」の道しるべとして不可欠な1冊である。

(くちき あきふみ)